

SETO

瀬戸臨海実験所

Seto Marine Biological Laboratory



瀬戸臨海実験所の概要

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所は、和歌山県と瀬戸鉛山村(当時)から支援を受け、大正11年(1922年)7月に白浜町の番所崎に京都帝国大学理学部附属の「瀬戸臨海研究所」という名称で池田岩治教授を中心として創設されたのが始まりで、令和4年(2022年)に創立100周年を迎えました。

ここ番所崎は、紀伊半島西岸に面した田辺湾口に位置し、気候は暖流黒潮の影響を受けて温暖です。自然の複雑な海岸地形と岩盤・転石・礫・砂・泥などの多様な底質が相まって、周辺海域は豊富な生物相に恵まれています。

教育活動として、京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 動物学教室 海洋生物学分科(協力講座)を置き、海洋生物の自然科学を志す大学院生のための教育を行っています。また、京都大学理学部向けの臨海実習、博物館実習、ILASセミナー(少人数ゼミ)や、一般公開の瀬戸海洋生物学セミナーを実施しています。

研究活動として、伝統的に海産無脊椎動物の分類学、系統学、および生態学などの自然史分野の研究を行ってきました。特に分類学においては、刺胞・有櫛・軟体・節足・毛顎・尾索動物について、同分野の発展の中心的な役割を果たしました。同時に、底生生物や浮遊生物各種の分布、生活史、種間関係、行動などに関する生態学的研究も展開してきました。現在においても、各教員が恵まれたフィールドを活かして研究を行っています。



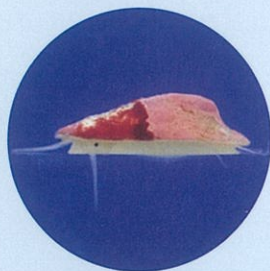
ヒメミジンミズムシ
(下村 通誉 所長/教授)



カサガイ
(中野 智之 准教授)



オウギウロコガイ
(後藤 龍太郎 助教)



ハナザラ
(山守 瑠奈 助教)



タコクラゲ
(河村 真理子 特定講師)

白浜水族館

京都大学白浜水族館は、昭和天皇の臨幸一周年を記念し、昭和5年(1930年)に当実験所の水槽室を公開したことに始まります。昭和30年(1955年)に文部省(当時)により博物館法に基づく博物館相当施設に指定され、現在では学芸員の資格取得に必要な科目である博物館実習の受け入れも行っています。

館内では周辺海域の海洋生物500種を57の水槽で展示し、無脊椎動物の生物多様性に力を入れています。夏休み等に合わせて、企画展、研究者と飼育係のこだわり解説ツアー、バックヤードツアーを実施しています。また、体験学習として、磯採集体験や飼育体験を開催しています。

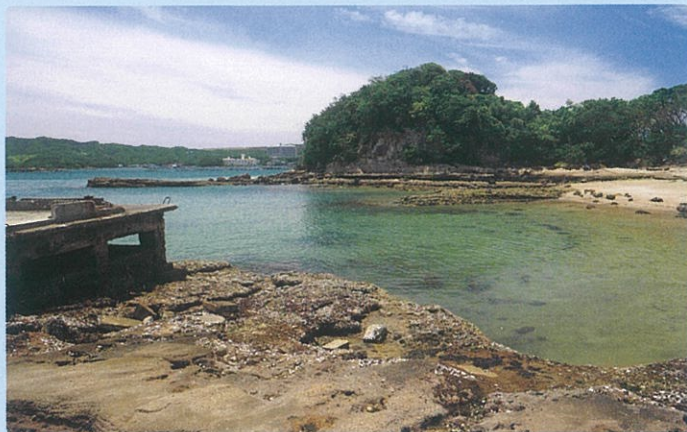
入館料は大人600円、小人200円です。団体割引などのご案内は白浜水族館ホームページをご覧ください。



島実験地

島実験地は、田辺湾内にある26,529m²の無人島で、全国の海洋生物学者の支援を受け、自然保護を目的として昭和43年(1968年)より当実験所が管理しています。島は多様な自然海岸からなり、一周するだけで田辺湾周辺の海岸生物相を一通り観察できる場所となっています。そのため、全国の大学の研究者および学生による研究調査や磯観察実習の拠点となっています。

当実験地では、1960年代から半世紀以上にわたり、モニタリング調査「海岸生物群集一世紀間調査」を継続し、海岸生物相が環境変動を背景としてどのように変わってきたかを発信してきました。海洋生物の保全につながる長期の活動が評価され、令和5年(2023年)に和歌山県から第22回わかやま環境賞を受賞しました。



教育研究設備

40,630m²の敷地内に、主な研究教育の場である研究棟、P2レベル実験室を備える第二研究棟、飼育実験設備を備える白浜水族館、海洋生物の雑誌を取り揃える図書室、10室を備える宿泊棟があります。

研究棟内には、共同利用可能な実習室、講義室、実験室、試料室、研究室2室を備えます。白浜水族館内の標本室には、研究の基となった生物標本が収納されており、新種として指定されたタイプ標本(SMBL-Type)については標本情報を国立科学博物館の公開データベース(S-Net)に登録しています。

研究実習船としてAフレームを備えるヤンチナ(12トン、定員26名)およびゾエア(1.3トン、定員12名)が各種海洋観測や生物採取に利用されます。



教育関係共同利用拠点

当実験所は、平成23年(2011年)に文部科学省の定める教育関係共同利用拠点「黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点」に認定されました。本事業は、海洋生物の自然史科学に関わる人材を育成し、高等教育の充実を目的としています。

全国の大学生・大学院生が受講できる公開実習(下記)や、共同利用実習・共同利用研究の受け入れを通じて、全国の大学に教育研究施設を開放し、臨海実習プログラムの提供、共同利用の公募の実施、利用者に対する支援、および関係施設の整備を行います。応募方法のご案内は、瀬戸臨海実験所のホームページをご覧ください。

公開実習スケジュール(令和6年度)

「博物館実習(館園実務)」

2024年6月4日～6月8日

「Functional Morphology and Evolutionary Biology of Marine Invertebrates」

2024年8月6日～8月12日

「自由課題研究」

2024年8月31日～9月6日

「海産無脊椎動物分子系統学実習」

2025年2月25日～3月4日

「藻類と海浜植物の系統と進化」

2025年3月中旬(5日間)

「沿岸域生態系多様性実習」

2025年3月26日～3月31日



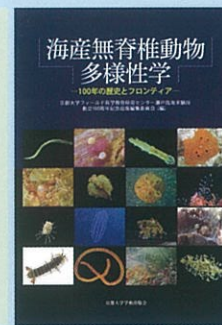
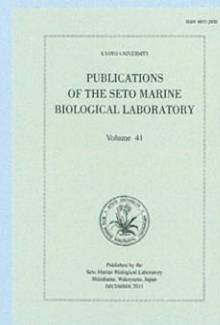
利用者に配布するガイド

学術出版と年次報告

海洋生物学および関連するあらゆる分野の科学を対象とした、査読付き、オープンアクセスおよび冊子体の国際学術誌「Publications of the Seto Marine Biological Laboratory」を刊行しています。

最近では、創立100周年の節目を迎え、日本の海産無脊椎動物研究の最新の成果を収録した「海産無脊椎動物多様性学—100年の歴史とフロンティア」と当実験所のあゆみを振り返る「瀬戸臨海実験所創立100周年記念誌」を出版しました。

また、京都大学フィールド科学教育研究センターより毎年刊行される年報において、教育研究活動や社会貢献に関する年次報告を行っています。



利用のご案内

調査研究・臨海実習・図書閲覧・見学などの目的で国内外の様々な教育研究機関が当実験所を利用しています。

有料施設については、研究棟の共同利用実習室、共同利用実験室、講義室(時間単位の貸付)、宿泊棟の各部屋(800円/日+リネン類クリーニング代)があります。船舶や図書室の複写機については、必要に応じて使用料金がかかりますが、教育関係共同利用拠点のご利用では、一部の料金が実験所負担になります。

利用申込の方法は、利用者の所属と利用内容により異なります。詳しくは瀬戸臨海実験所のホームページをご覧ください。いただくか、下記の事務室までご連絡ください。

瀬戸臨海実験所事務室

Tel: 0739-42-3515

Fax: 0739-42-4518

E-mail: riyou@seto.kyoto-u.ac.jp

(9:00～17:00受付、土日祝日を除く)



実験所HP

